

◆ 目黒区 ◆

# 中小企業の景況

令和2年度第4・四半期  
(令和3年1~3月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

# 目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和3年1～3月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和3年3月）	23
4. 特別調査「新型コロナウイルス感染拡大長期化の影響と新常态（ニューノーマル）への対応について」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

## 調査の概要

1. 調査時期      令和3年1～3月期（四半期毎実施）
2. 調査方法      面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	-	74
卸 売 業	-	21
小 売 業	-	37
サ ー ビ ス 業	-	47
建 設 業	-	31
合 計	-	210

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

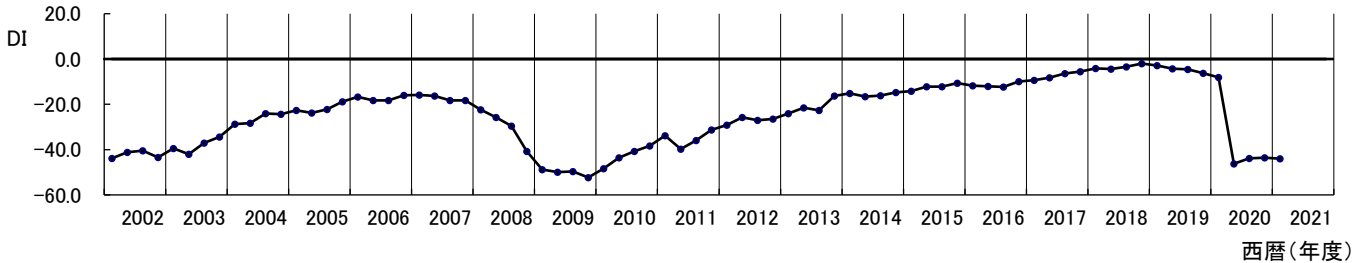
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会  
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

# 1. 都内中小企業の景況（令和3年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

コロナ第3波の影響も業況悪化踏みとどまる

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-44.0（前期は-43.6）と前期に比べ0.4ポイント減少し、前回の緊急事態時（4～6月期）よりも影響範囲は狭く、前期並で踏みとどまったが、依然低迷状態が続いている。

業種別では、卸売業で改善が見られたものの、小売業・建設業は再び悪化し、製造業・サービス業・不動産業においては変化なく推移した。

来期は、不動産業を除く全ての業種でゆるやかな改善が見られると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-49.9	-50.2	-0.3	-42.7	7.5
卸 売 業	-50.1	-46.9	3.2	-43.3	3.6
小 売 業	-48.2	-50.2	-2.0	-46.9	3.3
サ ー ビ ス	-46.4	-45.7	0.7	-40.2	5.5
建 設 業	-24.9	-27.3	-2.4	-22.8	4.5
不 動 産 業	-24.3	-23.4	0.9	-23.5	-0.1
総 合	-43.6	-44.0	-0.4	-39.0	5.0

西暦(年度)

## <製造業>

業況は下げ幅は小さくなってきているものの、期待に反し9期連続の悪化となった。売上額・受注残・収益については前期並の水準で推移した。価格面では、販売価格の低下・原材料価格の上昇はともに変動なく推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「販路を広げる」、「経費を節減する」と前期同様の順となっている。

来期の業況は、売上額・受注残・収益についても改善すると見ており、水面下ながら明るさが見えると予想している。

## <卸売業>

業況は売上額がわずかに上向き、収益も持ち直しが見られたことから、若干改善方向に進んだ。価格面では、販売価格の低下基調は続き、仕入価格は前期並の低水準で推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」と続いている。

売上額・収益ともに回復傾向が続くと予想しており、来期の業況は引き続き水面下ながら改善すると見ている。

## <小売業>

緊急事態宣言の再発令により営業時間短縮要請を受けた飲食店や建築材料、燃料等の落ち込みの影響を受け、業況は再び悪化した。価格面では、販売価格・仕入価格の動きはほぼ横這いで落ち着きを見せている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も「経費を節減する」、「品揃えを改善する」と上位に変化なく続いている。

売上額・収益ともに宣言解除後は改善が見られると予想しており、来期の業況は緩やかに上向くと予想している。

## <サービス業>

業況は緊急事態宣言にともなう催事（イベント等）の開催制限を受けた娯楽、宿泊・観光、洗濯・理容・美容など厳しい状況が続いているものの、更なる落ち込みはなく前期同様の水準に踏みとどまった。売上額・収益についても変化なく、前期並の低調感で推移した。価格面では、料金価格がわずかに上昇し、材料価格は変化なく落ち着きを見せた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」と続いている。

来期の業況は、段階的緩和措置を受けつつも、景気回復への期待感も含め悪化状態が緩和すると見ている。売上額はわずかに持ち直し、収益で改善が見られると予想している。

## <建設業>

ゆるやかな改善が続くと予想された業況はわずかに悪化し、改善の動きは足踏み状態となった。売上額・受注残・施工高・収益についても変動なく前期同様の水準で推移した。価格面では、請負価格の下降幅は前期並に推移したものの、材料価格は上昇傾向で推移した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期は、売上額・受注残・施工高・収益については減少・減益幅が縮小すると見ており、再びゆるやかに改善すると予想している。

## <不動産業>

売上額・収益については若干の悪化が見られたものの、業況は前期同様変化なく停滞した。価格面では、仕入価格はわずかに上昇傾向を強め、販売価格は前期並の下降が続いている。

経営上の問題点の上位2位は「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は、売上額・収益においては改善が期待できると見ているものの、今期並の状態でも停滞が続くと予想している。

〔注〕

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I・・・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。